

学習内容報告書 フォーマット

学校名	岩手県立釜石高等学校
授業者	和賀大毅

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

SS 探究Ⅱ 保健・福祉ゼミ

1-2. 学年

3 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

保健・福祉ゼミ

1-4. 単元の概要

本校はSSHに指定されており、本グループは普通科教科横断型の総合ゼミのうち、「保健・福祉」の分野ゼミに所属する複数のグループの1つである。ゼミ活動は、カリキュラム上の特性として、年度をまたいだ（前年度の後期から今年度の前期）探究活動を展開する。その前半にあたる前年度末には、ポスターセッション（研究内容をポスター（別添）にまとめて本校生徒並びにメンターとして入る外部の大人に向けて発表するもの）を行い、後半にあたる今年度の前期には、研究成果を論文（別添）にまとめるものである。

なお、本単元は学年間連携の形をとっており、主たる研究者である3学年生徒の活動に関心を持つ2学年の生徒が所属して1つのグループを構成し、共同研究を行うという特色がある。このため、現在2学年の生徒も、先輩の研究を引き継いで海洋資源に関連した研究を行っている。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

探究活動のはじめに研究テーマを検討した際、地元釜石市を中心とした沿岸地域の生業から着想を得て、「鯨」の調査を行うところから活動をスタートさせた。鯨について自由に問を表現させたところ、本グループは「鯨を釣ることは出来るのか」という問を立てて探究活動を行った。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

捕鯨の歴史や捕鯨問題についての学習を深め、地域の海洋資源の開発や活用、外国人との鯨の利活用についての考え方の違いやその保全の観点も取り込みつつ研究活動を行い、海と人との共生のために海を利用し海を守る人材の育成を目指す。

1-7. 単元の展開（全70時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
45	<ul style="list-style-type: none"> ・調査活動 購入した書籍およびインターネットを活用しての調査・研究 ・ポスター作成 研究内容をポスターにまとめて発表する ・論文執筆（探究活動の仕上げとして執筆） 	適宜アドバイスを行う。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター発表（ゼミ内・全体） 作成したポスターを分野ゼミ（保健・福祉）のメンバーを前に発表したうえで、全体での発表を行う。 	発表の際、メンターとして関わったすなごり舎の齋藤氏、岩手大学の田村氏と連携。今後の活動について打ち合わせの中で、貴財団の海洋教育パイオニアスクールプログラムの紹介を受ける。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・鯨と海の科学館訪問 館長による案内や座談会により、鯨が歴史的にみて地域経済の核であったことや、捕鯨の様子や使用された捕鯨船および道具について学んだ。 	館長の湊氏による説明・講演・座談会 すなごり舎齋藤氏、岩手大学の田村氏同行
14	<ul style="list-style-type: none"> ・鯨の探索活動 6月と7月の2回にわたり、漁船をチャーターして近海を探索し、実際に鯨を見るという夢を追いかけた。ドローンを飛ばして動画を撮影した。鯨は発見できなかったが、サメを突くシーンをドローン空撮動画に収めることができた。 2回の探索を通して漁業に対する理解と、食の生産現場に対するリスペクトが生まれた。 	漁船「嶋福丸」船長の三嶋氏の操縦により、山田町～釜石～大船渡の沖合 20 km付近を探索 漁業者との調整、ドローン会社との調整はすなごり舎齋藤氏 協力：盛岡市佐藤興産ドローン事業部小林様
2	<ul style="list-style-type: none"> ・日本鯨類研究所とのリモート対談 日本の調査捕鯨の中心的組織との対談を行い、鯨に関する学術的知見を深め、また捕鯨に関する国際的な情勢を学ぶとともに、日本を含めた捕鯨国と反対する国々との意見の相違について考察した。 	所長ゴメス氏、研究員2名による講義・対談 日本鯨類研究所との調整は岩手大学の田村氏とすなごり舎齋藤氏。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・論文の要旨発表（ゼミ内） ・1学年生徒への研究内容報告 これまでの研究の成果をまとめた論文について、ゼミ内でその要旨を発表した。また、他の学年にも研究内容を報告することで本事業について広く周知した。 	ルーブリックを用いた評価

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

鯨を実際に目視し、海洋生物の尊さと海洋資源の魅力を体感する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>●釜石港ですなどり舎の齋藤氏、ドローン撮影会社のスタッフと合流。嶋福丸の船長に挨拶。</p> <p>●釜石港出港 齋藤氏より釜石湾および近海の海洋資源について説明を受けながら沖合へ出る。</p> <p>●鯨の探索 船の各所に生徒および船員を配置し、東西南北をひたすら目視。櫓の上からも目視。これに加えて、ドローン撮影班による上空からの探索を行う。鯨の目印となる「尾」や「潮吹き」らしきものが見えた瞬間、声をあげ、その方角に漁船を向かわせる。この過程をひたすら繰り返しながら、近海を航海する。探索をしながら、船長の鯨目撃談や、見かけた他の海洋生物の生態などについて説明を受ける。 鯨の目視はかなわず、帰路、アオザメを対象とした突きん棒漁の実際を見学する。</p> <p>●寄港 降船後、皆で本日の出来事を振り返る形でフィードバック。三嶋氏にお礼の挨拶。</p>	<p>ともに漁船に乗り込み、生徒の学習活動を支援。</p>

3. 今回の活動の自己評価

鯨を釣ることはできないが、三陸沖に実際に生息する世界最大の哺乳類をせめてこの目で見てみたい。生徒たちのシンプルで熱い思いに対し、貴財団のおかげで応えることができたと感じる。船のチャーター、漁船のやぐらの上から目視を行うとともに、上空からのドローン撮影による映像を併せて探索するという本格的なものとなったが、結果的に鯨を発見することはできなかった。しかし、太平洋で飛び跳ねるマグロ、水面をきらびやかに泳ぐイワシ、そしてエイやトビウオなど、様々な生物が生きる豊かな海洋を目の当たりにし、生徒はもちろん、引率した自分自身も感動を覚えた。海洋は途方もなく広いことを肌で感じるとともに、この海が全ての生命を育てており、自身もその一部であるという感覚も得ることができた。何度も鯨を見ている漁師との対談からも、クジラの豊かな生態について学ぶことができた。

今回の活動を通じて、生徒は捕鯨問題及び海洋の環境に対する研究意欲をさらに高めることができ、論文執筆に対する主体性が身に付いた。また、自身の進路実現に向けて、その方向性が定まった生徒もいた。共同研究者である2学年の生徒も、これを機に深海生物の研究を熱心に行うなど、劇的な体験であったことがうかがえる。

4. 今後の課題

鯨を目視するという当初の目的は達成できなかったものの、3学年の生徒については、今回の活動を含めて充実した探究活動を展開でき、論文執筆や発表活動を通じて自己の進路実現に必要な資質能力も磨くことができた。しかし、後に続く2学年の生徒は、海洋資源に関連した他のテーマの探究活動に移行したものの、いささか活動内容に制約が出てきた。当面は書籍等での調査活動を行うことになるが、やはり外部連携による体験型学習から得られる効果に勝るものはない。3学年の生徒と入れ替わる形で、今年度の後期からは1学年の生徒もこのグループに所属して活動している。次年度の活動でも継続申請が採用されたならば、活発な探究活動が展開されることが期待できる。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。



船上からドローンを飛ばして鯨の探索



突きん棒漁で漁師さんが獲ったアオザメ



サメを船上にあげるシーンに見入る生徒



生徒と今回お世話になった方々